

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和元年度 第3回吉川市児童福祉審議会
開 催 日 時	令和2年1月30日(木) 午後6時00分から 午後7時35分まで
開 催 場 所	吉川市役所第304会議室
出席委員(者)氏名	手塚崇子委員(会長)、中野智恵子委員、大月浩史委員、新井一弘委員、吉岡弘美委員、石間太朗委員、五十嵐修委員
欠席委員(者)氏名	熊木崇人委員
担当課職員職氏名	こども福祉部子育て支援課長 桜井健一 こども福祉部保育幼稚園課長 島村善和 こども福祉部保育幼稚園課 課長補佐兼保育幼稚園係長 宮田匡寿 こども福祉部保育幼稚園課 課長補佐兼施設運営係長 三宅一規 こども福祉部子育て支援課 課長補佐兼子ども給付係長 飯野耕太郎 こども福祉部子育て支援課 子育て支援係長 青柳乃り恵 こども福祉部子育て支援課 子育て支援係主事 石井賢聖 こども福祉部子育て支援課 子育て支援係主事 今関夕貴 こども福祉部障がい福祉課 障がい福祉係主査 薄田千枝子 健康長寿部健康増進課 母子保健係長 稲見絹子
会議次第と会議の公開 又は非公開の別	1 開 会 2 あいさつ 3 議 事 (1) 第二期吉川市子ども・子育て支援事業計画案の検討 (2) 子どもの貧困対策推進計画の進捗状況について 4 その他 5 閉会 ※ すべて公開
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開にした場合)	なし
傍 聴 者 の 数	なし
会 議 資 料 の 名 称	・資料1 第二期吉川市子ども・子育て支援事業計画(素案) ・資料2 子どもの貧困対策推進計画の進捗状況
会 議 録 の 作 成 方 法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会 議 録 確 認 指 定 者	五十嵐委員、新井委員
そ の 他 の 必 要 事 項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)

事務局

資料の確認

**1. 開会**

開会の宣言

**2. あいさつ**

子育て支援課長あいさつ

会長

**3. 議事**

事務局

**(1) 第二期吉川市子ども・子育て支援事業計画案の検討**

**【関係資料】**

**資料1 第二期吉川市子ども・子育て支援事業計画(素案)**

(担当課より資料について説明)

■第2回児童福祉審議会での意見・質問に対する回答

(意見・質問) 第二期計画の骨子案中、親への支援は多く盛り込まれているが、子ども目線での支援、子ども主体の考え方が欠けているのではないか。

(回答) 14頁第3章基本理念に「子どもの権利条約」の考え方を追加。また、ひとつ目の柱「子どもや子育て家庭の希望が叶うために」の内容に子どもが主体であるという考え方を示した。

(意見・質問) 「保育事業の充実」という括りの中に、「量の確保」については示されているが、「質の向上」について明記されていない。

(回答) 26頁 重点施策1における「2教育・保育の提供及びその推進に関する体制と確保の内容」(2)教育・保育に係る基本的考え方とその推進方策の内容に「情報交換や研究など連携を図り、質の向上に努めていく」との考え方を明記した。

(意見・質問) 民間と行政など機関同士の連携について明記されていない。

(回答) 50頁「第6章計画の推進」で関係機関の連携を明記し、

	<p>それと並列する形で「家族」「地域」「企業」とそれぞれの役割を示した。</p> <p>(意見・質問) 現在社会的に問題となっている「不妊治療」の掲載について</p> <p>(回答) 次期計画には「第5章施策の展開」45頁のNo.21に「不妊治療等費用助成事業」の項目を追加した。</p>
委員	<p>(質疑応答)</p> <p>36頁「(2) その他の一時預かり」の利用実績値について、平成30年度に比べ今年度の見込み数が極端に少ないが、その理由を伺いたい。また、明らかな理由があれば、注釈を入れる必要があるのではないか。</p>
担当課	<p>一時預かりは公立保育所と民間保育所で実施している事業である。しかし、今年度については、建て替えて第二保育所が開設していないため、見込み数が減少している。また、ご意見のとおり、計画書には理由を追記すべきと考えている。</p>
委員	<p>27頁「利用者支援事業」の相談員である「保育コンシェルジュ」や「子育て支援コーディネータ」の身分(職種)を伺いたい。</p>
担当課	<p>双方とも市の臨時職員である。なお、「保育コンシェルジュ」については、市内の保育所に勤務していた元保育士を雇用している。</p>
委員	<p>41頁「1 地域における子育て支援の充実」の「5 放課後子ども教室事業」について、担当部署を知りたい。また、学童保育室との違いは何か。</p>
担当課	<p>「放課後子ども教室事業」は教育委員会の生涯学習課が所管している。なお「学童保育事業」は保護者が就労により家庭で養育できない場合、その対象となる小学生に対し放課後の居場所を提供する事業で</p>

	<p>ある。一方、「放課後子ども教室事業」は、利用制限はなく、現在は三輪野江小学校において、地域の方々と関りを持ちながら、音楽や将棋など様々な活動を行っている。</p>
委員	<p>今後、拡大していく考えはあるのか。</p>
担当課	<p>三輪野江小学校をベースにしながら、活動を充実させていくと聞いている。</p>
委員	<p>実際の現場においても、スタッフの資質向上が必要であると感じている。そのため、研修の実施や情報共有の場をつくるなど、市も積極的に取り組んでいただきたい。</p>
事務局	<p>貴重なご意見を頂いた旨、担当課に申し伝える。</p>
委員	<p>「ファミリーサポート事業」の協力会員を増やす取り組みを行っていると思うが、現在は高齢化が進み協力会員を辞める人も多くなっている。また、「緊急サポート事業」は利用料が高いため、利用をためらう人も少なくない。様々な問題点がある中、事業を利用しやすくするための仕組みを作るのは行政であると感じている。</p>
事務局	<p><b>(2) 子どもの貧困対策推進計画の進捗状況について</b></p> <p><b>【関係資料】</b></p> <p><b>資料2 子どもの貧困対策推進計画の進捗状況</b></p> <p>(担当課より資料について説明)</p> <p>(質疑応答)</p>
委員	<p>子どもの貧困には様々な理由があり線引きが難しい。吉川市の視点を持って計画を推進していただきたい。</p>

委員	<p>先日、子ども食堂のスタッフの方と話をする機会があった。その話の中で、昔は明日食べるものがないという家庭が多かったが、現在、そのような家庭はほとんどない。しかし、「貧困」とはお金だけの問題に留まらず、時代が変わっても、子どもへ愛情を注ぐことや居場所の提供は必ず必要であり、子ども食堂が担う部分は大きいという会話をしたところである。</p>
委員	<p>世代間交流をすることも非常に大切である。また、家族以外からアドバイスやサポートを受けることのできる環境が出来れば、自然と人に優しい社会が築けると感じている。</p>
委員	<p>子どもは自分の居場所を求めている。また親も同様に「仕事」、「家庭」、あともう一つのコミュニティをつくる必要があると言われていて、「大丈夫だよ」と言ってもらえる安心できる場所があることが、貧困から虐待を防ぐ一つの要素であると感じている。</p>
委員	<p>準要保護の基準や対象について、また入学準備金の周知を始める時期について知りたい。</p>
担当課	<p>生活保護基準の1.3倍を低所得世帯とみなしている。また、周知については、早い段階で行っていると聞いているが、具体的な時期については担当外のため把握していない。</p>
委員	<p>理論上、経済が進んでいくと貧困は減少していくものであり、貧困対策の計画に位置づけられている各々の事業については、非常に有効であると感じている。しかし、問題となってくるのは貧困家庭の子どもへの影響である。貧困家庭の子どもは、保護者が金銭的・精神的に余裕がないため、愛情が育ちにくい。また、様々な点で経験不足になることが多い。必要な物がない・人と出会う機会が少ない・言葉かけが少ないということは、脳への刺激も少ないため非認知能力は育ちに</p>

	<p>くいと言われている。また、良好な人間関係はコミュニケーション能力を向上させ、困難を乗り越える力が育っていく。今回示された進捗状況では、数字の成果として出ているが、目に見えない部分をどうするかを考える必要があるのではなか。その答えのひとつに支援者側の資質の向上があると感じている。気づく目を持てるよう研修等の機会を増やし、支援者側が適切な対応をすることが、違う視点からの貧困対策になると考えている。</p>
委員	<p>保育コンシェルジュ等もある程度のスキルと経験を持つなど、現場を知っている人材を採用することが望ましい。</p>
委員	<p>大人が与える子どもへの影響は非常に大きい。また、学校現場においても、保護者から教育相談を受けているが、家庭内の問題に及ぶことが多く、学校のみで解決することは難しい状況にある。そのため様々な関係機関が情報を密にし、連携していくことが非常に重要であると感じている。</p>
委員	<p>ニートと呼ばれる方に対する支援は行っているのか。</p>
担当課	<p>若者の就労支援やひきこもり対策の重要性は認識しているところであるが、具体案は今後示していきたいと考えている。</p>
委員	<p>ひとり親交流会の参加人数及び周知方法を伺いたい。</p>
担当課	<p>5月に実施した茶話会には3名、就職支援相談については4名、ママカフェの参加者は0名であった。2月には企業と共同でメイクアップ講座を開催する予定であり、今後も様々な企画を実施し、市民に関心を持っていただきたい。なお、周知については、市の広報誌やチラシの配布、また個別相談の際、直接お知らせをしている。</p>

委員	寺子屋事業の担当課を伺いたい。
事務局	教育委員会の生涯学習課が担当している。
委員	「NO.15 気づき、つなげる力を養う職員、教員への研修」の対象や内容について伺いたい。
担当課	内容については検討段階であるが、職員・教員が合同で行う研修会を想定している。例えば、様々な問題を抱えた市民が相談に来た際、職員によって対応が異なる場合がある。そこで相談内容から職員が気づく目を持ち、適切な窓口につないでいくという視点を持った内容にしたい。また、この研修を通じて、職員の視野が広がることに加え、関係機関の役割分担も出来るのではと考えている。
委員	市役所に相談に来られない人についてのアウトリーチ支援はどのように考えているか。
担当課	収納課や水道課など子育て関係以外の部署で、その家庭の問題点が見える場合がある。様々な対応の中で、つながっていない家庭の声を聞く姿勢を示していければと考えている。また、前述の研修会ではその部分の意識を高めていくことも目的のひとつとしたい。
委員	支援を必要としている人を把握するためには、個人情報管理も課題として残るが、学校側としては民生委員・児童委員との情報共有は必要であると感じている。
委員	生活困窮者に関わる際は、行政への橋渡しをするなど民生委員として出来る限りの支援をしていきたいと考えている。

事務局

**4. その他**

**(1) 第4回児童福祉審議会について**

今回は令和2年3月中旬に実施の予定である。今後とも引き続き協力をお願いしたい。

**5. 閉会**

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和 2 年 3 月 2 日

署名委員 五十嵐 修 自署

署名委員 新井 一弘 自署